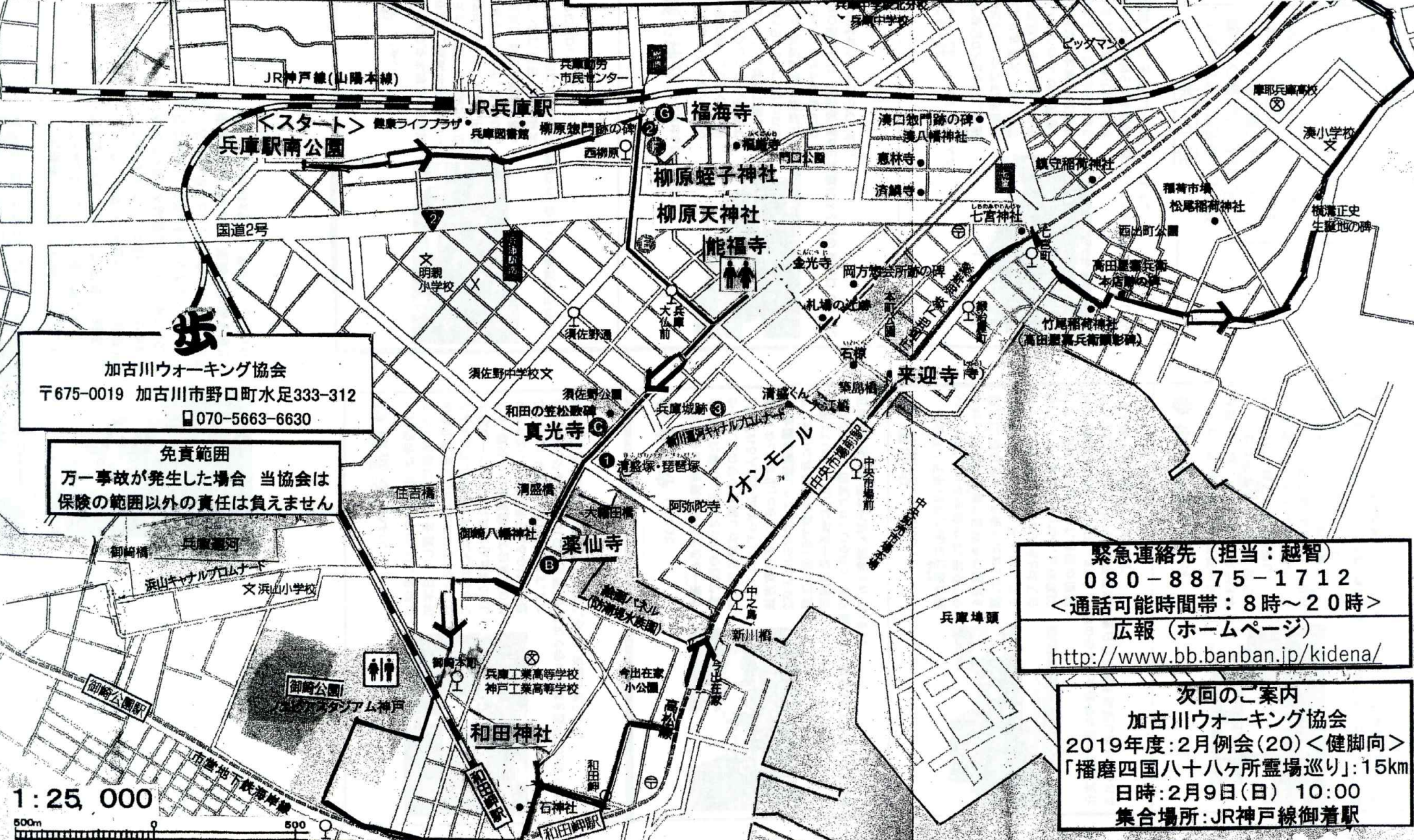


加古川ウォーキング協会  
 2019年度:1月例会(19) <一般向>  
 「兵庫七福神を訪ねて」10km  
 日時:1月26日(日) 10:00  
 集合場所:JR兵庫駅(駅南公園)  
 解散場所:JR神戸駅

コース:JR兵庫駅→駅南公園(集合)⇒①福海寺⇒②柳原蛭子神社⇒  
 ③柳原天神社⇒④能福寺⇒⑤真光寺⇒清盛塚⇒⑥薬仙寺⇒清盛塚  
 ⇒御崎公園(昼食)⇒⑦和田神社⇒来迎寺⇒七宮神社⇒高田屋嘉兵衛  
 の碑⇒横溝正史生誕の碑⇒JR神戸駅



加古川ウォーキング協会  
 〒675-0019 加古川市野口町水足333-312  
 ☎070-5663-6630

免責範囲  
 万一事故が発生した場合 当協会は  
 保険の範囲以外の責任は負えません

緊急連絡先(担当:越智)  
 080-8875-1712  
 <通話可能時間帯:8時~20時>  
 広報(ホームページ)  
<http://www.bb.banban.jp/kidena/>

次回のご案内  
 加古川ウォーキング協会  
 2019年度:2月例会(20)<健脚向>  
 「播磨四国八十八ヶ所霊場巡り」:15km  
 日時:2月9日(日) 10:00  
 集合場所:JR神戸線御着駅

1:25,000  
 500m

「七福神」めぐりは江戸時代、庶民の間で大ブームとなったもので、福を呼ぶ神様7カ所を巡礼することで、「七難即滅・七福即生」、つまり7つの災いから逃れ7つの福徳が授かるといわれています。訪れた寺社で福絵馬や朱印を集める風習は江戸時代からあり、身近な娯楽として親しまれていたようです。

古くから港町として栄えた兵庫津は、西国街道の要所でもあり、陸路や海路を通じてたくさんの神様がここに集まったといわれています。



### ◎ 福海寺 よくかいじ

福海寺は釈迦如来を本尊とする禅宗南禅寺派の寺院で、建武年中(1334~35)に足利尊氏が在庵円有に開かせたといわれています。もとは二本松(JR兵庫駅の西)にありましたが、嘉吉の乱(1441~43)で焼失し、現在の位置に移ったと伝えられています。現在では大黒天をまつり、毎年1月9~11日には「大黒祭」が催され、向かいの柳原蛭子神社とともに参詣客でにぎわいます。



### ◎ 能福寺 のうふくじ

能福寺は、延暦24年(805)に最澄が自作の薬師如来像を安置して、日本初の教化霊場にしたことにはじまるといわれる天台宗の寺院です。ここには日本三大仏の一つである兵庫大仏がありましたが、戦時中の金属供出で台座だけが残されました。現在見られるのは、平成3年(1991)に再建されたものです。また境内には、ジョセフ・ヒコ(浜田彦蔵)が英文で寺の由来を説明した碑や神戸事件で切腹した滝善三郎の供養碑など、多くの史跡があります。



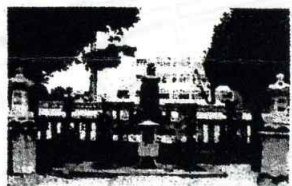
### ◎ 柳原蛭子神社 やなぎはらひるこじんじや

創建された年代はわかっていませんが、兵庫の地で福の神として古くから崇敬されてきた神社のひとつです。現在では「柳原のえべっさん」とよばれて親しまれ、毎年1月9~11日にかけて行われる「十日戎大祭」には、商売繁盛や福徳円満を願ってたくさんの人々が参詣に訪れます。また境内の傍らには、西国街道から兵庫に入る西の玄関口であった「柳原惣門」をしのばせる碑が立っています。



### ◎ 真光寺 しんこうじ

真光寺は、時宗の開祖である一蓮が亡くなった場所に建立された寺院です。かつて、この寺の東側には須佐の入江と呼ばれる入海が広がっていました。一蓮は「おどり念仏」と呼ばれる布教方法で、全国を遍歴したことで知られ、正応2年(1289)に兵庫観音堂で51歳の生涯を閉じています。境内に残る一蓮の廟所は県の史跡に指定されているほか、南北朝時代に再建されたと思われる石造五輪塔も県の重要文化財に指定されています。



### ◎ 柳原天神社 やなぎはらてんじんじや

須磨の綱敷天満宮などとともに、菅原道真ゆかりの神社のひとつです。延喜元年(901)2月、道真は左遷先である太宰府への途次、暴風雨を避けるため和田岬に一時上陸したといわれ、彼の死後、所縁の地である兵庫に太宰府安楽寺から分霊をうけてまつったのがはじまりと伝えられています。鎌倉時代には、時宗の僧他阿がこの神社の傍らに満福寺を建立し、この寺の僧侶が奉仕していましたが、明治初年の神仏分離によって独立しました。



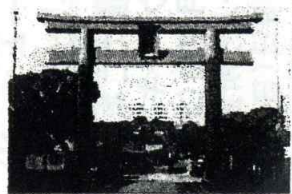
### ◎ 薬仙寺 やくせんじ

薬仙寺は天平18年(746)に行基が開いたと伝えられる寺院です。元弘3年(1333)、後醍醐天皇が配流先の隠岐を脱出し、福厳寺に身を寄せたおりに、薬水を献上したことから薬仙寺の名を賜ったとも伝えられています。もとは天台宗でしたが、延文元年(1356)、住僧真如は念仏修行に訪れていた時宗の僧国阿の門弟になり、時宗に改宗しました。本尊の薬師如来坐像は国の重要文化財に指定されており、境内には平清盛が後白河法皇を幽閉したといわれる「置の御所」跡の碑などがあります。



### ◎ 和田神社 わだじんじや

神代の昔、蛭子大神が淡路から和田岬に上陸したといわれ、承安3年(1173)には平清盛がこの地に安芸の宮島より市杵嶋姫大神を勧請しています。万治元年(1658)には武庫川の氾濫によって、「岡田宮」のご神体が和田岬に漂着したことから、尼崎藩主青山幸利は大社殿を造営しました。和田神社は海の守り神として崇敬され、境内には知多半島を拠点として江戸と兵庫を結んだ尾州廻船の船主や江戸と兵庫の商人たちが奉納した常夜灯などが残されています。



## 来迎寺

平清盛が経ヶ島築造をする際、幾度かの暴風雨と大波に見舞われた大変な難工事でした。清盛は旅人を人柱にし、海神の怒りをなだめようとしましたが、17才の松王丸が代わりに自分が人柱になると願い出て、経文を記した石と共に沈みました。「松王小児入海」の碑と墓が残されています。